

恋人の聖地 大町に大賞

観光スポット活用 カップル40組誕生

プロポーズにふさわしい観光スポットを「恋人の聖地」に選定しているNPO法人地域活性化支援センター（静岡市）は20日、聖地を最も地域振興に活用した団体に大町市を選び、第1回観光交流大賞を贈った。全国で209カ所の聖地を選定しているが、聖地を生かした取り組みを表彰するのは初めて。

静岡のNPO 地域振興で初表彰

大町市は、北アルプスと市街地を一望できる鷹狩山展望公園や国営アルプスあつみの公園大町・松川地区といった観光スポットをメインに、市内全域を「北アルプスハートロード」と名付け、2013年4月、聖地に選定された。

市は聖地などで13、14年度に婚活イベントを計6回実施し、計40組のカップルが誕生したことなどが評価された。昨年11月には同展望公園にハート形の記念碑を設置。除幕式に合わせ、結婚式も行われた。

大町市には立山黒部アルペンルート（黒部峡谷）があり、審査員を務めた女優の菊川怜さんは「結婚式の選択肢が広がるすてきな場所」と評価。市観光課の西沢美千夫課長は「受賞を励みに、聖地を地域振興に一層役立てたい」と話した。

恋人の聖地は「非婚、少子化対策と観光地の活性化をテーマに、06年から選出。埼玉を除く46都道府県の公共機関が管理する132カ所と、民間施設7カ所が選ばれている。



「恋人の聖地」に選定され、大町市定住促進協働会議が鷹狩山展望公園に設置した記念碑＝昨年11月2日、大町市